

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	無期限（1999年4月28日設定）
運用方針	わが国の株式を主要投資対象とし、ボトムアップ・アプローチを基本としたアクティブ運用により、長期的に安定した信託財産の成長をはかることを目標として運用を行います。
主要運用対象	わが国の株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	株式（新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。）への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	毎年1回決算（原則として4月20日。ただし、4月20日が休業日の場合は翌営業日とします。）を行い、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配を行う方針です。ただし、分配対象収益等が少額の場合には分配を行わないこともあります。

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。  
 ※公募株式投資信託は税法上、「NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）」の適用対象です。  
 詳しくは販売会社にお問い合わせください。

## 運用報告書（全体版）

# 三菱UFJ 日本成長株オープン

愛称：ブルーム

第17期（決算日：2016年4月20日）

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。  
 さて、お手持ちの「三菱UFJ 日本成長株オープン（愛称：ブルーム）」は、去る4月20日に第17期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

三菱UFJ投信株式会社は2015年7月1日に国際投信投資顧問株式会社と合併し、「三菱UFJ国際投信株式会社」となりました。



## 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号  
 URL:<http://www.am.mufg.jp/>

本資料の記載内容に関するお問い合わせ先

お客さま専用フリーダイヤル **TEL. 0120-151034**  
 (9:00~17:00, 土・日・祝日・12月31日~1月3日を除く)  
 お客さまのお取引内容につきましては、お取り扱いの販売会社にお尋ねください。

# ◆目次

## 三菱UFJ 日本成長株オープンのご報告

◇最近5期の運用実績	1
◇当期中の基準価額と市況等の推移	2
◇運用経過	3
◇今後の運用方針	7
◇1万口当たりの費用明細	8
◇売買及び取引の状況	8
◇株式売買比率	9
◇利害関係人との取引状況等	9
◇組入資産の明細	10
◇投資信託財産の構成	12
◇資産、負債、元本及び基準価額の状況	13
◇損益の状況	13
◇お知らせ	14

## 本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

## ○最近5期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	標準価額			(参考指数)		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
		税込み 分配	み 金 騰	期 騰 落	中 率	東証株価指数 (TOPIX)			
	円	円					%	%	百万円
13期(2012年4月20日)	6,254	0		2.0	811.94	△3.0	98.2	—	2,711
14期(2013年4月22日)	9,853	0		57.5	1,145.60	41.1	98.5	—	3,351
15期(2014年4月21日)	10,395	150		7.0	1,171.40	2.3	98.0	—	3,333
16期(2015年4月20日)	12,679	1,500		36.4	1,582.68	35.1	98.3	—	2,793
17期(2016年4月20日)	12,694	0		0.1	1,365.78	△13.7	98.3	—	2,963

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 基準価額動向の理解に資するため、参考指数を掲載しておりますが、当ファンドのベンチマークではありません。

(注) 東証株価指数(TOPIX)とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの指数値及びそこに含まれるデータの正確性、完全性を保証するものではありません。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		( 参 考 指 数 )		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率
		騰 落 率	東 証 株 価 指 数 (TOPIX)	騰 落 率		
(期 首) 2015年4月20日	円	%		%	%	%
	12,679	—	1,582.68	—	98.3	—
4月末	12,872	1.5	1,592.79	0.6	98.7	—
5月末	13,672	7.8	1,673.65	5.7	98.7	—
6月末	13,748	8.4	1,630.40	3.0	98.5	—
7月末	13,966	10.2	1,659.52	4.9	98.8	—
8月末	12,857	1.4	1,537.05	△ 2.9	97.9	—
9月末	11,959	△ 5.7	1,411.16	△ 10.8	98.3	—
10月末	12,759	0.6	1,558.20	△ 1.5	98.5	—
11月末	13,341	5.2	1,580.25	△ 0.2	98.9	—
12月末	13,381	5.5	1,547.30	△ 2.2	98.8	—
2016年1月末	12,547	△ 1.0	1,432.07	△ 9.5	98.2	—
2月末	11,488	△ 9.4	1,297.85	△ 18.0	98.3	—
3月末	12,356	△ 2.5	1,347.20	△ 14.9	97.9	—
(期 末) 2016年4月20日						
	12,694	0.1	1,365.78	△ 13.7	98.3	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

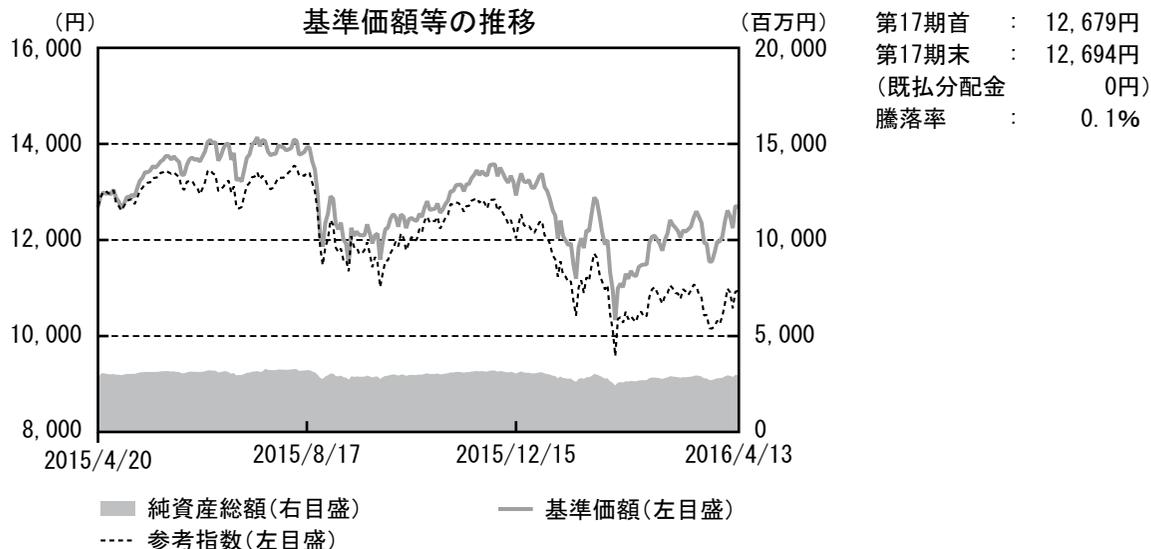
## 運用経過

当期中の基準価額等の推移について

(第17期：2015/4/21～2016/4/20)

基準価額の動き

基準価額は期首に比べ、0.1%の上昇となりました。



## 基準価額の変動要因

上昇要因	個別銘柄の株価が上昇したことが、基準価額の上昇要因となりました。
下落要因	世界経済への懸念や円高・ドル安の進行などが嫌気され国内株式市況が下落したことが、基準価額の下落要因となりました。

## 投資環境について

(第17期：2015/4/21～2016/4/20)

## ◎株式市況

- ・期首から2015年8月上旬にかけては、円安・ドル高による企業業績の改善期待と中国の株価指数が急落したことなどへの懸念が交錯し一進一退の動きとなり、8月中旬からは中国による人民元の対ドル為替レートの基準値切り下げが原油価格や新興国通貨の下落へと波及したことなどにより、世界経済の先行き見通しに対する不透明感が高まり、大幅に下落しました。
- ・10月上旬から11月末にかけては、ECB（欧州中央銀行）による金融緩和に対する期待が高まるなど先進国の緩和的な金融政策による株式への資金流入期待などが強まったことなどを背景に、上昇しました。
- ・12月上旬から2016年2月中旬にかけては、原油価格が下落基調で推移したことなどをを受けて新興国を中心に世界経済の減速懸念が強まったことや米国の利上げ時期の先送り観測が広がり外国為替市場が大きく円高・ドル安方向に動いたことなどを背景に、大幅に下落しました。
- ・2016年2月下旬から期末にかけては、原油価格の動きが落ち着きを取り戻したことなどが好感される一方、外国為替市場で円高・ドル安基調が続いたことなどが懸念され、一進一退の動きとなりました。

## 当該投資信託のポートフォリオについて

- ・当ファンドでは成長の基盤や成長のファクターなどを見極め、中長期的な成長が見込める企業などを中心に選別投資を行いました。
- ・組入銘柄は概ね63～73銘柄程度で推移させました。ファンダメンタルズの変化や新規投資候補銘柄との相対比較などを勘案し、適宜銘柄の入れ替えを行いました。がん治療薬「オブジーボ」による業績改善を評価した「小野薬品工業」、ハイブリッド車や電気自動車向けリチウムイオン電池用セパレーターの需要が拡大している「ダブル・スコープ」などを新規に組み入れる一方、スマートフォン販売の低迷による業績への悪影響が懸念されたことなどから「アルプス電気」を全株売却するなど銘柄の入れ替えを行いました。当期は、44銘柄を新規に組み入れ、44銘柄を全株売却しました。
- ・以上のような運用の結果、基準価額は上昇しました。
- ・個別銘柄で特に寄与、影響額が大きかった銘柄は以下の通りです。

(プラス要因)

## ◎銘柄

- ・そーせいグループ：新薬の欧州での売上拡大、米国での販売を期待し期首より保有しました。買収したヘプタレス社で開発中の複数の開発品を導出することを発表したことなどを背景に株価が上昇し、プラスに寄与しました。
- ・ペプチドリーム：製薬大手向けに特殊ペプチド医薬品の開発受託・技術貸与件数の増加を期待し期首より保有しました。順調な新規契約の拡大などを背景に株価が上昇し、プラスに寄

与しました。

(マイナス要因)

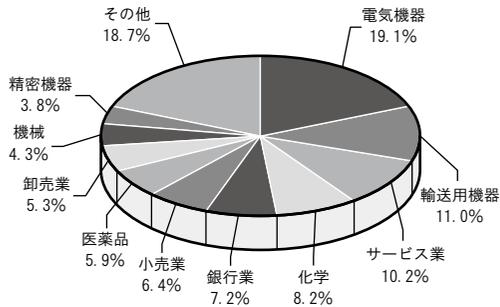
◎銘柄

- ・マツダ：小型SUV（スポーツ用多目的車）の好調な販売による業績拡大を背景に期中に新規買い付けしました。販売は引き続き好調なもの、急激な円高による業績悪化が懸念され株価が下落し、マイナスに影響しました。

(ご参考)

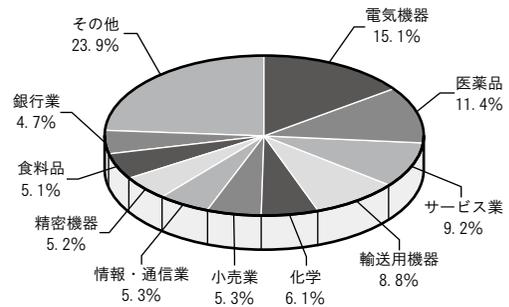
組入上位10業種

期首（2015年4月20日）



(注) 比率は現物株式評価額に対する割合です。

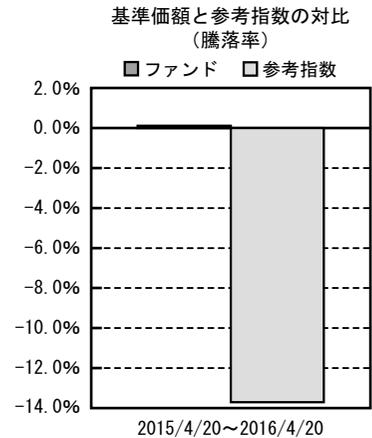
期末（2016年4月20日）



(注) 比率は現物株式評価額に対する割合です。

## 当該投資信託のベンチマークとの差異について

- ・当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。右記のグラフは当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率との対比です。
- ・参考指数は東証株価指数（TOPIX）です。



## 分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

## 【分配原資の内訳】

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第17期	
	2015年4月21日～2016年4月20日	
当期分配金	—	
(対基準価額比率)	—%	
当期の収益	—	
当期の収益以外	—	
翌期繰越分配対象額	2,693	

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

### ◎運用環境の見通し

- ・当面の国内株式市場については、足下の円高・ドル安や中国など新興国の景気低迷などを背景とした業績不透明感はあるものの、為替動向が安定してくれば日本の政府・日銀のデフレ脱却や景気回復に向けた各種の取り組み、日本や欧州の金融緩和などを背景に、堅調な展開を想定しています。
- ・国内景気は、足下の円高進行などの影響もあり賃金上昇が限定的だったことなども一因となり個人消費に勢いがみられず、足踏み状態にあると判断しています。今後は、政府による経済対策や日銀による追加緩和などにより、景気は徐々に回復してくると思います。
- ・市場の期待が大きい企業統治改革でも着実な進展が見え始めており、資本効率の改善や株主還元などを通じて中長期的に日本株式の上昇に寄与するものと期待しています。
- ・一方、米国の金融政策や景気動向、欧州や新興国の経済・政治動向、近隣アジア諸国との諸問題、紛争やテロなどのリスク要因には引き続き注意が必要と考えています。

### ◎今後の運用方針

- ・企業業績が株価の主な変動要因となると考えることから、リサーチを徹底し、ボトムアップ・アプローチを基本とした銘柄選択効果を追求します。
- ・成長の基盤、スマートな成長、成長のファクターを見極め、成長性との対比から株価が割安と判断される銘柄に投資し、長期的に安定した信託財産の成長をめざします。

## ○1万口当たりの費用明細

(2015年4月21日～2016年4月20日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円	%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率× (期中の日数÷年間日数)
( 投 信 会 社 )	(105)	(0.810)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
( 販 売 会 社 )	(100)	(0.778)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 11)	(0.086)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	44	0.342	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
( 株 式 )	( 44)	(0.342)	
(c) そ の 他 費 用	0	0.000	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
( そ の 他 )	( 0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	260	2.016	
期中の平均基準価額は、12,912円です。			

(注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○売買及び取引の状況

(2015年4月21日～2016年4月20日)

## 株式

国 内	上 場	買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
		千株	千円	千株	千円
		3,718	4,862,401	3,301	4,714,188
		( 43)	( -)		

(注) 金額は受渡代金。

(注) ( )内は株式分割・増資割当および合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

## ○株式売買比率

(2015年4月21日～2016年4月20日)

## 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	9,576,590千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	2,973,316千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	3.22

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

## ○利害関係人との取引状況等

(2015年4月21日～2016年4月20日)

## 利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B		売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	
			$\frac{B}{A}$			$\frac{D}{C}$
株式	百万円 4,862	百万円 1,015	% 20.9	百万円 4,714	百万円 1,214	% 25.8

## 利害関係人の発行する有価証券等

種 類	買 付 額	売 付 額	当 期 末 保 有 額
株式	百万円 106	百万円 28	百万円 138

## 売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	10,330千円
うち利害関係人への支払額 (B)	2,183千円
(B) / (A)	21.1%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、三菱UFJフィナンシャル・グループ、アコム、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

## ○組入資産の明細

(2016年4月20日現在)

## 国内株式

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
<b>建設業 (2.5%)</b>				
大林組	—	42	46,788	
ライト工業	—	20	25,120	
<b>食料品 (5.1%)</b>				
江崎グリコ	—	5.8	30,276	
山崎製パン	—	16	40,240	
味の素	16	15	38,565	
アリアケジャパン	—	6	38,100	
<b>繊維製品 (1.8%)</b>				
東レ	—	56	53,440	
<b>化学 (6.1%)</b>				
住友化学	131	—	—	
東ソー	23	51	25,602	
日本触媒	8	—	—	
東京応化工業	3.7	—	—	
ダイキョーニシカワ	—	20.8	33,488	
花王	—	7.1	41,776	
日本ペイントホールディングス	—	11.2	32,076	
ポーラ・オルビスホールディングス	4.7	—	—	
日東電工	4.8	—	—	
ニフコ	7	8.5	43,520	
<b>医薬品 (11.4%)</b>				
塩野義製薬	6.7	—	—	
日本新薬	8	6	29,160	
科研製薬	10	—	—	
小野薬品工業	—	11.3	58,760	
JCRファーマ	—	15.4	43,520	
そーせいグループ	6.5	4.2	98,742	
ペプチドリーム	3.7	14.9	101,767	
<b>ガラス・土石製品 (—%)</b>				
日本カーボン	36	—	—	
<b>鉄鋼 (1.2%)</b>				
日新製鋼	8.7	24.7	34,703	

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
<b>非鉄金属 (2.4%)</b>				
UACJ	—	55	12,320	
古河電気工業	—	218	57,334	
<b>金属製品 (1.9%)</b>				
SUMCO	—	44	30,096	
東プレ	—	11.6	26,239	
三益半導体工業	39.8	—	—	
<b>機械 (2.9%)</b>				
SMC	1.6	—	—	
小松製作所	—	29.5	57,377	
アマノ	—	15.7	28,307	
TPR	9.8	—	—	
日本精工	17	—	—	
<b>電気機器 (15.1%)</b>				
ミネベア	8	—	—	
マブチモーター	4.6	4.5	23,760	
日本電産	5.3	5.9	45,795	
ダブル・スコープ	—	9.9	56,430	
オムロン	5.2	—	—	
ソニー	15.3	19	57,513	
TDK	5.1	—	—	
アルプス電気	19.6	—	—	
日本航空電子工業	5	—	—	
キーエンス	0.6	1.2	78,384	
シスメックス	8.1	5.9	41,713	
OBARA GROUP	3.6	—	—	
イリソ電子工業	3.3	—	—	
スタンレー電気	—	11.5	27,174	
ローム	5.2	—	—	
村田製作所	3.3	3.8	55,499	
象印マホービン	—	14.1	26,381	
東京エレクトロン	—	3.8	28,253	
<b>輸送用機器 (8.8%)</b>				
ユニプレス	6	—	—	

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
日産自動車	35.1	60.3	61,264	
トヨタ自動車	20.5	11.9	67,151	
日野自動車	—	34	41,514	
プレス工業	32.3	—	—	
太平洋工業	—	15	15,405	
アイシン精機	—	6.2	25,947	
マツダ	—	12.3	20,836	
富士重工業	—	3.1	11,373	
ヤマハ発動機	10.6	—	—	
エフ・シー・シー	—	8	14,320	
シマノ	1.6	—	—	
<b>精密機器 (5.2%)</b>				
トプコン	5.9	—	—	
朝日インテック	9.8	17.2	96,320	
CYBERDYNE	4.6	22.6	55,166	
<b>その他製品 (0.9%)</b>				
パイロットコーポレーション	—	5.8	25,897	
<b>陸運業 (1.4%)</b>				
東日本旅客鉄道	6.2	—	—	
東海旅客鉄道	—	2	40,570	
<b>情報・通信業 (5.3%)</b>				
ブイキューブ	—	25.3	31,220	
GMOペイメントゲートウェイ	5.7	6.2	47,554	
SRAホールディングス	—	5.4	13,996	
大塚商会	—	5.5	30,635	
NTTドコモ	—	11	29,755	
GMOインターネット	22.4	—	—	
スクウェア・エニックス・ホールディングス	11.3	—	—	
<b>卸売業 (2.0%)</b>				
伊藤忠商事	—	21.7	30,662	
三井物産	43.9	—	—	
三菱商事	29.6	15	29,032	
<b>小売業 (5.3%)</b>				
ジェイアイエヌ	4.4	—	—	
スタートトゥデイ	—	12	57,600	
クスリのアオキ	5.4	5.1	31,263	

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
良品計画	3	1.6	41,216	
ユナイテッドアローズ	—	5.5	23,457	
しまむら	2.5	—	—	
ファーストリテイリング	0.5	—	—	
<b>銀行業 (4.7%)</b>				
三菱UFJフィナンシャル・グループ	136.2	256.6	138,256	
三井住友フィナンシャルグループ	14.5	—	—	
京都銀行	10	—	—	
<b>保険業 (1.5%)</b>				
アニコム ホールディングス	—	15.2	44,049	
第一生命保険	37.1	—	—	
<b>その他金融業 (1.3%)</b>				
イオンフィナンシャルサービス	3.3	—	—	
オリックス	41.5	22.3	36,404	
<b>不動産業 (4.0%)</b>				
パーク24	—	9.1	29,484	
三井不動産	—	11	30,151	
三菱地所	26	—	—	
東京建物	—	37.5	57,000	
レオパレス21	18.5	—	—	
<b>サービス業 (9.2%)</b>				
アイティメディア	—	27.9	28,458	
エス・エム・エス	23.3	—	—	
リニカル	—	20.8	43,971	
エムスリー	39	38	108,680	
アウトソーシング	—	7.5	27,187	
ディー・エヌ・エー	11.8	—	—	
E P Sホールディングス	21.1	—	—	
セブテニ・ホールディングス	—	21.6	59,724	
リゾートトラスト	8.9	—	—	
テクノプロ・ホールディングス	8.1	—	—	
エイチ・アイ・エス	10.2	—	—	
合 計	株 数 ・ 金 額	1,109	1,569	2,913,747
	銘柄数<比率>	68	68	<98.3%>

(注) 銘柄欄の( )内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。  
(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

## ○投資信託財産の構成

(2016年4月20日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 2,913,747	% 95.1
コール・ローン等、その他	150,952	4.9
投資信託財産総額	3,064,699	100.0

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2016年4月20日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	3,064,699,971
コール・ローン等	72,703,701
株式(評価額)	2,913,747,530
未収入金	58,354,540
未収配当金	19,894,200
(B) 負債	101,616,833
未払金	72,922,458
未払解約金	4,240,679
未払信託報酬	24,453,424
未払利息	181
その他未払費用	91
(C) 純資産総額(A-B)	2,963,083,138
元本	2,334,239,653
次期繰越損益金	628,843,485
(D) 受益権総口数	2,334,239,653口
1万円当たり基準価額(C/D)	12,694円

## &lt;注記事項&gt;

- ①期首元本額 2,203,476,012円  
 期中追加設定元本額 599,353,677円  
 期中一部解約元本額 468,590,036円  
 また、1口当たり純資産額は、期末12,694円です。

## ②分配金の計算過程

項 目	2015年4月21日～ 2016年4月20日
費用控除後の配当等収益額	-円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	-円
収益調整金額	365,521,544円
分配準備積立金額	263,321,941円
当ファンドの分配対象収益額	628,843,485円
1万円当たり収益分配対象額	2,693円
1万円当たり分配金額	-円
収益分配金金額	-円

## ○損益の状況 (2015年4月21日～2016年4月20日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	42,571,786
受取配当金	42,543,362
受取利息	27,696
その他収益金	1,217
支払利息	△ 489
(B) 有価証券売買損益	△ 6,318,010
売買益	617,437,496
売買損	△623,755,506
(C) 信託報酬等	△ 50,011,644
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 13,757,868
(E) 前期繰越損益金	263,321,941
(F) 追加信託差損益金	379,279,412
(配当等相当額)	( 130,763,669)
(売買損益相当額)	( 248,515,743)
(G) 計(D+E+F)	628,843,485
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	628,843,485
追加信託差損益金	379,279,412
(配当等相当額)	( 130,763,669)
(売買損益相当額)	( 248,515,743)
分配準備積立金	263,321,941
繰越損益金	△ 13,757,868

- (注) (B) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。  
 (注) (C) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。  
 (注) (F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

\*三菱UFJ国際投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ (<http://www.am.mufg.jp/>) をご覧ください。

[お 知 ら せ]

- ①2015年7月1日に国際投信投資顧問株式会社と合併し、商号を三菱UFJ国際投信株式会社へ変更し、信託約款に所要の変更を行いました。  
(2015年7月1日)
- ②2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315% (所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5% (法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。)) の税率が適用されます。